

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>生徒個々の「生きる力」を伸ばし、進路を切り開く力をつけるとともに、地域と密接に連携した教育活動を行うことで地域に信頼される学校をめざす。</p> <p>1 生徒が積極的に授業に参加・活動する中で、学習習慣を身につけ、自らが「わかる」実感を持てる授業を展開し、「確かな学力」の確立をめざす。</p> <p>2 自らの夢や進路を実現するため、キャリア教育と「志学」の充実に努め、自立支援コース、スポーツ専門コース、福祉・保育専門コースや他のコースの特色を生かした教育活動を展開する。</p> <p>3 生徒が社会人としてふさわしい行動や話し方を身につけ、人権意識と規範意識が向上するように指導を徹底し、阿武野高生としての自覚と誇りを養う。</p> <p>4 地域（保育園から中学校、大学、地域関連諸団体等）と密接に交流・連携を推進し、地域の人々に信頼され、貢献する人材を育成する。</p>

2 中期的目標

<p>1 確かな学力の育成</p> <p>(1) 学習環境整備と授業規律の確立</p> <p>(2) 生徒の授業参加と活動量を積極的に増進させ、生徒の実態と発達段階の理解に基づいて1年次、2年次、3年次ごとの生徒育成目標を具体的に立てる。学校全体で協議・計画を進めながら学習指導と生徒育成に努め、「確かな学力」を確立する。これらとともに、学校行事や部活動のさらなる活性化に努め、「生きる力」の向上をめざす。</p> <p>2 進路意識の高揚とコース制の充実</p> <p>(1) 学年が進行するにつれて学習意欲と進路意識が高まり、進路実現ができる学力を養成する。進路指導部と各学年が一体となり、キャリア教育と進路指導を計画的に行う。</p> <p>(2) 「自立支援コース」、「福祉・保育専門コース」、「スポーツ専門コース」や生徒の選択したコースや科目を、より生徒や保護者のニーズに適した学習内容に改善し、生徒個々の進路に結び付ける。</p> <p>3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成</p> <p>(1) 教育活動が安全で安心して行われる施設及び学習環境を教職員と生徒・保護者が納得・協力して作り上げ、人権意識及び自尊感情の醸成との高揚に努める。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立と高校生や社会人が守るべき必要な行動、マナー、態度を教育活動全体の中で習得させる。生徒の実態と発達段階の理解に基づいて目標を掲げて担任団を中心に全教職員できめ細かな生徒指導を行う。</p> <p>4 地域に信頼され、貢献できる学校作り</p> <p>地域や中学校と密接に交流・連携を行い、本校の教育実践や生徒の活動状況等を積極的な広報活動と交流することによって、地域や中学校からより一層の信頼を得る。また、これらの活動を通じて地域に信頼され、卒業後、地域に貢献できる人材育成を行う。</p> <p>《各学年の目標》</p> <p>1年→①生徒自らが時間や規則を守って行動し、授業規律を順守し、学習環境の整備を行える習慣をつける。</p> <p>②生徒の実態理解に基づいて、生徒が参加し、活動量の多い授業を展開する中で、基礎学力の向上を図る。</p> <p>③家庭学習を習慣づけるため、国語、英語、数学等で小テスト等の課題や宿題を課し、それらの確認を行い、授業進行に活用する。</p> <p>④英語検定を中心に漢字検定等の受験を広く募り、合格できるように指導を行う。</p> <p>⑤職業についての知見を広め、高校卒業後の進路を見据え、2年次のコースや科目を適切に選択するよう、進路指導部を中心に学年団全員で指導を行う。</p> <p>⑥自己をよく知り、自尊感情を醸成するとともに、人権意識の高揚を図る</p> <p>2年→①1学期から高校卒業後の進路意識を高め、規律ある授業の中で生徒自ら授業への参加・活動度を上げ、基礎学力の充実に努める。</p> <p>②専門コースや選択科目の学習内容の充実により学力の増進に努める。</p> <p>③1年次の指導を受けて、進路実現に適した、理解しやすく、かつ、生徒が積極的に参加・活動・発表し、達成感のある授業を展開する。</p> <p>④1学期から卒業後を見据えたキャリア教育を推進し、オープンキャンパスやインターンシップへの参加を促す。また、3年次のコースや選択科目が適切に選択できるよう、進路指導部を中心に学年団全員でガイダンスを行う。</p> <p>⑤上級の英語検定を中心に漢字検定やガイドヘルパー等の受験を広く募り、合格できるよう指導を行う。</p> <p>⑥地域でのボランティア・社会貢献活動（あぶネット）に全員参加し、地域や仲間と「ともに生きる」教育を実践するとともに、地域での本校教育活動の貢献と理解度を高め、阿武野高校生としての自尊感情を育成する。</p> <p>3年→①2年次までの指導を受けて、生徒個々の進路実現を確実にするため、規律ある授業の中で生徒が積極的に参加・活動する魅力ある授業を展開し、進路決定後もその後の進路を見据えて卒業時まで学習を継続させる。</p> <p>②専門コースや選択科目が生徒個々の進路に結びつくよう、コースや選択科目の内容の充実に努める。</p> <p>③「行きたい学校」、「就きたい職業」への志望を明確にさせ、第1志望の合格に必要な学力の育成と進路指導を行う。そのために必要な補習・講習を行い、参加を促す。また、必要な個別の学習指導と進路ガイダンスを継続的かつ適切に行う。専門コースの学習内容が進路選択に適するように指導を継続的に行う。</p> <p>④卒業後の社会人として必要なマナーや法的知識を習得し、TPOに適した態度や行動がとれるように総合的な学習の時間やLHRを中心にあらゆる場面で指導を行う。</p> <p>⑤就職・進学に必要な資格試験の受験を広く募り、合格できるよう指導を行い、進路実現やその後の進路に役立てる。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○結果全体として、ほとんどの項目の数値結果が伸び率は大きくないが向上し、生徒・保護者からの学校への信頼度は向上している。</p> <p>1 学習指導等</p> <p>生徒の授業参加と活動量を積極的に増進させ学校全体で協議・計画を進めながら学習指導に取り組んだ。昨年度との比較で、「基本の明確化」「教材の精選」教職員で(78.3→87.1%)、生徒の ICT 機器等の使用授業で(75.8→77.6%)となり、授業改革が進行している。授業規律の確立については、教職員で(46.8→60.6%)、生徒で「私語が少なく授業を聞く雰囲気」(43.5→47.6%)、保護者でも「子どもが授業を分かりやすいと言っている」が(54.7→60.7%)なり、自由記述などを含めて、昨年度より授業改善の取り組みの改善がみられる。しかし、教員の「授業の工夫」について(73.9→67.6%)、「指導や評価の各教科の話し合い」71.2→58.8%と低下しているため更なる改革を教科及び全体研修等や日常の話し合いの増加によって改善を促す必要がある。</p> <p>2 生徒指導と進路指導等</p> <p>この3年間を比較すると、生徒の「学校に行くのが楽しい」が63.9→67.9→67.1%、保護者の「子どもが学校に行くのを楽しみ」が75.0→78.6→78.6%であるが、さらなる満足度増が求められる。また、「生活指導を重視している」については生徒では(49.2→63.8→80.2%)、教職員では(85.1→89.1→90.9%)と取り組み姿勢を自己評価している。また、生徒の生活指導方針への納得が41.9→53.3→53.1%、保護者の「生徒の生活指導方針へ共感」が48.9→64.1→72.5%、「先生の子供理解度」が60.6→70.8→70.1%となり、保護者の学校方針への理解が進みつつあるが、一層の工夫も必要である。進路指導については、60.2→67.7→83.6%と向上している。また、「生徒の人権教育の機会」については生徒で62.6→73.6→78.9%、「障がい理解」については70.9→75.9→76.8%となり、年々、本校の人権教育方針の理解がアップしている。</p> <p>3 学校運営</p> <p>学校行事についての生徒の満足度は、55.1→65.8→70.0%と上昇し、行事改革を進めてきた成果が見られる。課題である「清掃」に関しては教員評価で、「清掃がいきとどいている」が29.4→32.6→43.6%、生徒評価で「清掃の徹底」が56.2→59.7%と改善されたがまだ課題である。教職員の学校運営に対する自己診断調査結果では、「校長のリーダーシップ」85.5→86.0→92.5%、(生徒評価「校長の学校を良くする意欲」57.5→67.1→70.4%)また、「若手のフォロー」66.6→79.4%となり、学校の一体感がある。「教務上の処理、内規等について諸項目」、「人権教育の諸項目」、「問題行動への組織的対応」全て90%以上であるが、次年度も継続する努力が必要である。保護者の「学校の教育情報の提供」に関しては58.7→70.8→76.8%とアップし、メルマガジンやHPの情報提供、丁寧な文書連絡が高評価を得ている。また、「教職員はPTA活動によく参加している」(17.0→21.7→41.0%)も増加傾向で今年度の「学校行事やPTA活動の充実」という重点目標に教職員が努力した結果が現われている。</p>	<p>第1回 (5/30)</p> <p>○学校経営計画について</p> <p>1.PTA活動への保護者、教職員の参加拡大の工夫をお願いしたい。保護者への連絡や広報活動を活発化して、保護者・教職員・生徒が連携してより良い学校作りをめざしてほしい。2.地域との連携をさらに進めて、学校経営計画のめざす「地域の人々に信頼され貢献する」人材育成をめざしてほしい。</p> <p>○授業について</p> <p>1.昨年と比べて授業に落ち着きが見られ、生徒が生き生き授業を受けている。さらに「社会人として通用する人になる」人材育成をめざして生徒が授業、部活、行事に打ち込める学校をめざしてほしい。2.時代の変化に対応した指導の在り方を考えながら改革を進めてほしい。特に人権配慮や気配りのできる生徒を増やしてほしい。</p> <p>第2回 (9/30)</p> <p>○授業改善の推進について</p> <p>1.授業へのICTの導入を研修等を通じて推進しているが、無理のない形でお願いしたい。2.生徒と教員の関係がフレンドリーであるが、もう少し緊張感があってもよいと思う。</p> <p>○特別活動の推進状況について</p> <p>1.体育大会、阿武高祭の工夫、クラブ集会の導入、地域と学校の連携を緊密化を図り学校が活性化している様子が分かった。このような取組みが生徒指導案件の減少にもつながっていると思われるので続けてほしい。2.部活動加入率が49%→56%、新入生加入率が66%と上昇しているのでさらに阿武野高校が好きな生徒を増加させるような取組みを行ってほしい。</p> <p>第3回 (2/4)</p> <p>○授業改善について</p> <p>1.授業へのICTの導入については、無理のない形でお願いしたい。2.生徒と教員の関係はもう少し緊張感のある関係が良い。3.専門コースの授業等、モデルになる授業の継続をお願いしたい。</p> <p>○学校行事、部活動の改善について</p> <p>1.清掃活動、クラブ集会等様々な活動によって懲戒件数の減少や学校の活性化につながっているので改善の継続をお願いしたい。</p> <p>○地域連携や情報発信について</p> <p>1.HPでの発信や中学校訪問等の努力しているのは理解しているが、中学生や地域の人々に直接伝わるような活動(出身生徒の中学校でのパフォーマンスなど)をより増加させるとともに阿武野高校の魅力より多くの人々に伝える他の方法も考え、魅力を十分に伝えてほしい。</p>

府立阿武野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)授業環境整備、授業規律及び各授業時間での授業提示と成果確認の実施 (2)-1 生徒の参加や活動量の多い授業による表現力、行動力の向上 (2)-2 学校行事や部活動の活性化による「生きる力」の養成。	・授業環境の整備（教室、机上等）及び授業に必要なものの準備（テキスト、ノート等）の徹底を図る。 ・各授業の初めに授業目標の提示を徹底し、授業後にその成果を確認する。 ・家庭学習を習慣づけるために課題や宿題を課し、それらの確認を行い、授業進行に活用する。 ・生徒の授業参加を積極的に促進し、「講義型」でない指導法により、生徒の授業参加と活動量を増加させる。そのために、ICT 利用や対話型や発表型の授業の導入を促進する。 ・授業交流週間を 1, 2 学期に実施し、授業交流、研究授業を増加させ、生徒の参加・活動の多い授業を増加させる。 ・国際交流事業（ケント高との相互交換留学）や英検受験などを通じて、英語力と国際感覚を養う。 ・学校行事、生徒会活動、部活動をさらに充実させて、「生きる力」の向上を図る。	・管理職による授業観察の際、各教員による「生徒への授業の目標提示」100% ・「私語が少なくしっかり授業を聴く雰囲気」43.6%→50% ・宿題年間各学年 900 回→1000 回。 ・「授業の内容に興味・関心が持てた」72%→77%以上、「授業をうけて知識や技能が身についた」73%→78%以上。 ・「視聴覚機器や情報機器を使用した授業が多い」76%→81%以上。 ・教員間授業見学及び研究授業参加者 150 人以上。 ・校内英検受験者数年間 43 人→60 人。 学校行事満足度 65.8%→70% 新入生部活動加入率 60%→65%	・1 回目の授業観察で、管理職による授業観察の際、「生徒への授業の目標提示」できなかった教員 2 名、指導後、各教員による「生徒への授業の目標提示」100%達成。(○) ・「私語が少なくしっかり授業を聴く雰囲気」47.6%(△) ・宿題年間 各学年平均 1016 回。(○) ・「授業の内容に興味・関心が持てた」75.8%、「授業をうけて知識や技能が身についた」77.3%。(○) ・「視聴覚機器や情報機器を使用した授業が多い」77.6%(○) ・教員間授業見学及び研究授業参加者 230 人。(◎) ・校内英検受験者数年間 30 人。(第 2 回英検と 2 学期中間試験の重なりのため)(△) ・学校行事満足度 70.0%(○) ・新入生部活動加入率 66% (5 月)、部活動加入率 49%→56%(○)
2 進路意識の高揚とコース制の充実	(1)学習意欲と進路意識の高揚 (2)専門コースや選択科目の内容の充実による進路保障につながる学力の養成	○各学年で高い進路目標を掲げ、卒業後の進路を見すえた、系統だった進路指導を行う。そのため、各学年で進路希望別補講を実施する。 ・1 年次は自己を知り自尊感情の育成しながら、将来の職業生活についての意識を高める。そのために保護者を交えた個人面談を全員実施し、卒業後の進路や将来の職業を意識したコース選択・科目選択を徹底する。 ・2 年次は進路体験学習や総合的な学習の時間等を利用するとともに面談等によって卒業後進路目標を確定する。 ・3 年次は進路別補講を春休みより継続的に実施と担任と進路指導部によるきめ細かなガイダンスにより進路希望実現 100%をめざす。	・進路指導部における進路相談 200 回以上の継続。 進路補講のべ 500 回以上の継続。 ・保護者との直接の面談・懇談を在校生徒数以上実施。 ・全員が卒業後の希望方面体験を実現。進路目標確定 90%以上。 ・1 年次より進路補講の継続的实施 「進路や生き方を考える機会がある」79%→85% ・卒業時、進路満足度 90%→94%	・進路指導部における進路相談 250 回を超えた。(◎) 進路補講のべ 500 回以上の実施。(○) ・保護者との直接の面談・懇談を在校生徒数以上実施については 2 学期終了時点でのべ 1048 で生徒数の約 1.5 倍を実施。(◎) ・全員が卒業後の希望方面体験を実現。進路目標確定 93.3%。(◎) ・1 年次より進路補講を英国中心に継続的实施。 「進路や生き方を考える機会がある」83.5% (○) ・卒業時、進路満足度 87.0% (△)
3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成	(1)-1 安全で安心して勉学に励むことができる環境作り (1)-2 自尊感情と人権意識の高揚 (2)-1 時間遵守し、TP0 をわきまえた集団行動が適切に行える規範意識の確立 (2)-2 生徒・保護者の理解度の高い生徒指導の実現	・学校内外の環境保全につとめ、安全で安心な学校づくりを行う。防災・安全教育の各学期実施を継続し、校内美化週間を各学期に設け、校内清掃の徹底を図る。 ・遅刻防止及び頭髪指導→8 時 30 分正門前にて全教職員が輪番で実施する。 ・高校生にふさわしい服育指導を行う。 ・教員から声かけを行い、朝の遅刻指導から、『オアシス運動』を推進し、自ら挨拶のできる生徒を増加させる。 ・一人ひとりが阿武野高生の代表であるという自覚のもと、TP0 をわきまえた態度、言葉遣いを習得させる。 ・交通安全指導、特に自転車指導を各学年で実施し、地域に信頼される生徒育成を行う。 ・社会規範を守り、地域貢献活動を継続する。 ・生徒指導について生徒への説明及び保護者への連絡を密にし、生徒指導方針への理解を深める。	・「自分のクラスの清掃をきちんと」56%→70%以上。 ・防災・安全教育の各学期実施継続 ・学校遅刻年間 5900 件→5500 件以下。 ・学期末での頭髪・服装違反者 0 の継続。 ・全員達成。 ・「学校は生活規律・授業規律など基本的な生活習慣の確立に力を入れている」81%→86%以上。 ・地域への迷惑に対するご意見の件数 5 件以下、及び自転車事故 3 件以下の実現。 ・保護者の「生徒指導方針の共感」64%→70%以上及び生徒の「先生の指導方針の納得」53%→60%以上。	・「自分のクラスの清掃をきちんと」60.7%。(△) ・防災・安全教育の各学期実施継続 (○) ・学校遅刻年間 5900 件→5342 件。(◎) ・各学期末での頭髪・服装違反者 0 の継続はできている。(○) 3 学期末も全員達成。(○) ・「学校は生活規律・授業規律など基本的な生活習慣の確立に力を入れている」81.2%。(△) ・地域への迷惑に対するご意見の件数 3 件、及び自転車事故については 8 件。(△) ・保護者の「生徒指導方針の共感」72.6%。生徒の指導方針の納得」53.1%。(△)
4 地域に信頼され、貢献できる学校作り	1 地域や小中学校等への学校全体での密接な連携・交流 2 地域や中学校への積極的な広報活動の展開 3 地域や保護者に信頼され、地域に貢献できる人材作り	・地域のあらゆる学校との連携活動を通して、地域に信頼され、貢献する高校であることを生徒に実感させることによって、一人ひとりが阿武野高生の代表であることの自覚と自尊感情を高める。 ・生徒会活動、部活動、福祉・保育専門コース、スポーツ専門コース等に加え、ガイドヘルパー養成講座、クリーンキャンペーン等への地域貢献活動の参加を継続・発展させ、地域に貢献する本校への理解度を高める。学年の総合的な学習 (LP) を利用して、1 年次は、地域の障がいのある方との交流による全員が「障がい者理解学習」を行い、2 年次は、全員が「あぶネット」に取り組み、「地域に貢献する本校の教育姿勢」を地域や中学校に示すとともに人権意識と自尊感情の醸成に取り組む。3 年次には、自立支援コース生徒の地域の交流団体への体験学習や就労体験を継続的に実施する。 ・本校の教育内容や特色を中学校にあらゆる手段を用いて伝達し、志願者増をめざすと同時に、授業（特に専門コース）や特別活動等を通じて中学校や地域貢献を行い、本校の教育活動への理解を促進する。 ・PTA 行事や地域連携活動への参加・分担等を特別活動部員や副担任の教員に割り当て分担し、教員の参加度を向上させる。	・地域諸団体、地域の学校、支援学校との交流・連携 80 回以上の継続。 ・生徒会や部活動による地域奉仕 10 回以上の継続。 ・「障がい者理解学習」、「あぶネット」については参加 100%の継続。 ・中学校等訪問のべ、100 回以上及び中高連絡会の 1, 2 学期実施の継続。 ・校内学校説明会、部活動説明会の計で 6 回以上、教育産業への訪問 20 校以上継続実施。 ・HP を H26 年度用に 1 学期中に改訂実施と年間更新 70 回以上の継続。 阿武野高校ニュースを年 8 回以上発行し、HP 掲載と地域・中学校への配付。 ・保護者の教育情報の提供満足度 70%→75% ・教職員の PTA 参加度 22%→30%	・地域諸団体、地域の学校、支援学校との交流・連携 95 回 (◎) ・生徒会や部活動による地域奉仕 10 回以上の継続。 新たに野球部が週 2 回の地域清掃活動実施。(◎) ・「障がい者理解学習」、「あぶネット」については参加 100%の継続ができた。(○) ・中学校等訪問のべ、107 回実施及び中高連絡会の 1 学期各中学校と実施。2 学期は課題のある生徒に在る中学校訪問によって連絡会を実施。(○) ・校内学校説明会、部活動説明会の計で 6 回以上、教育産業への訪問のべ 25 校実施。(○) ・HP を H26 年度用に 1 学期中に改訂実施と年間更新 2 学期までで 70 回以上実施。(○) ・阿武野高校ニュースを年 8 回発行。HP 掲載と地域・中学校への配付を実施。(○) ・保護者の教育情報の提供満足度 76.9% (○) ・教職員の PTA 参加度 41.0% (◎)